1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000154		
法人名	医療法人社団輝正会		
事業所名	グループホームはたなか		
所在地	尼崎市大庄西町1丁目10-15		
自己評価作成日	令和6年10月3日	評価結果市町村受理日	令和6年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqyosyoCd=2893000154-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和6年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体及び連携医療機関である富中整形外科・リハビリテーション科において、医療管理の体制や個々に合ったリハビリテーションにより、入居者様の健康維持や促進に努めている。
「グループホームはたなか」は、認知症によって自立した生活が困難になった入居者様に対して、家庭的な環境の下、食事、入浴、排泄等の日常生活のお世話及び日常生活の中で行われる心身の機能訓練により、入居者様がその有する能力に応じ、可能な限りの自立した生活を営むことで『安心と尊厳のある暮らし』を支援させて頂いている。
生活空間であるリビングは広く、入居者様はゆったりとした生活を送られています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体であるため、利用者の自立維持に繋がる、リハビリテーションが毎週実施されています。月一回以上の内科診療があり、また必要が生じた場合は、随時速やかに対応できる体制が確立されています。整形外科の診療が必要な方は、週二回の往診が行われています。毎週訪問看護による支援も行われており、健康相談や状態管理に繋がられています。24時間対応のオンコール体制もあり、医療機関と一体となった支援体制が確立されています。近隣地域や市内からの利用者が多く、地域に根ざした家庭的な施設運営を大切にされており、利用者が安心して、明るくすこやかに生活していける施設を目指した運営に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示板など、職員の目に入る場所に貼り出している。	地域密着型の施設特性を踏まえた、利用者が家庭的な環境で生活できる場となるよう留意されています。利用者にとって、暖かみのある安心感の持てる、施設とされるよう努められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	感染予防に重点をおいている為、現在外部の方との交流はない。	従前は、地域への祭事参加や交流が行われていましたが、コロナ禍の制限下において、困難な状況でした。制限緩和に伴い、状況を踏まえ、可能な範囲からの再開が予定されているところです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、書類発送にて自治会の代表の方に、事業所の実情をお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防対策から、運営推進会議参加者の方に、書類発送にて事業所の実情をお知らせしている。意見書も同封させて頂き、ご意見があれば、お言葉を頂いている。	コロナ禍の制限下以降、感染症状況も影響し、対面での開催再開には至っていませんが、書面による報告と、それに対する参加者からの意見聴取で代替開催されています。施設内状況を鑑みながら、対面での再開が予定されているところです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業に関する事でわからないところは相談の連絡をしている。但し、感染予防の観点から、市から派遣されている介護相談員の方は、状況により来所をお断りさせて頂いている。少し関係が希薄になっていると思われる。	運営推進会議を中心とした、地域包括支援センターとの情報交換・情報共有が行われています。地域ニーズを踏まえた、取組の再開拡充が検討されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について意識付ける為、スタッフ全員が必ず目を通す連絡帳に書類を発信している。	2ヶ月に1回、拘束に関する適正化委員会が開催されています。委員会の内容は、職員全体に共有されています。年2回の職員研修が実施されています。口頭による拘束に繋がるような言葉使いについても留意されています。	

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的にカンファレンスに組み込んだり、自主研修をするよう発信している。運営規定や重要事項説明書にも取り入れている。	年2回、虐待に関する適正化委員会が予定されています。委員会の内容は、職員全体に共有されています。年2回の職員研修が実施されています。利用者の身体変化や痣等が生じていないかも留意されています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場に、成年後見制度や日常生活自立支援事業に関するファイルを置き、いつでも誰でもが勉強できるようにしている。	利用者の意思と尊厳を大切に、利用者の意向を踏まえたかかわりとなるよう留意されています。職員に向け、権利擁護の本質を大切に研修開催が計画されています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず行い、ご家族の意向をお聞きするようにしている。	契約時には、利用者やご家族等が金銭面での総額がイメージしやすい資料を活用する等、わかりやすく理解しやすい説明の工夫に努められています。質問や疑問等が無いかを丁寧に確認し、ご理解頂いた上での利用開始となるよう留意されています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口があり、話を聞く体制を取っている。	運営推進会議の場や、面会時、電話時等に、家族等の意見を聴取出来るよう努められています。継続案件等は、担当者不在時でも対応できるよう、記録として共有されています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	タイミングをみて職員に話をし、意見や提案(その他)を聞くようにしている。	日常から、管理者と職員の対話を大切に、職員の意見や意向を把握できるよう努められています。法人や代表に、職員が直接意見等を言える体制があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート(目標進捗状況)を作成し、向上心を持って勤務を行うよう努めている。業績によって奨励金を給付している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染予防に重点を置いている為、Webでの研修を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去に、いくつかの事業所が集まったの会議があったり、そのグループ内で研修を行ったりしていたが、現在は感染予防に重点を置いている為、他事業所との交流や勉強会はない。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で出てきた不安や困っていることにはよく話を聞くようにしている。また解決出来ることはその状況に合わせて、解決に導くように働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の相談から、多少なりとも関係作りが出来ていると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居利用相談時に、内容によっては他のサービス等の紹介なども考慮し、話をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にその考えを持ち、支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防の観点から、現在ご家族との共同の行事等がない。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以降、以前に連絡があったところからの連絡が途絶えている。	コロナ禍の制限下以降、感染症状況も影響し、従前のような交流が困難な状況でした。制限緩和に伴い、可能な範囲からの交流再開が予定されているところです	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にフロアの状況を観察し、その時の状況や状態により関わり方を考え、その様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのような方が現れた時は必要に応じ、関わっていきたくと考えている。		
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を通じて希望や意向を把握している。認知症の進行により把握が困難な場合には、管理者、ケアマネ、職員による会議を開き、本人本位の検討に努めている。	日常からの利用者との職員との会話等で把握した、利用者自身の思いや意向を大切にできるよう努められています。利用者の思いや意向の実現に繋がられるよう留意されています。	利用者自身の事実や意向を、長期間継続して共有出来る仕組みとして、残していける工夫拡充に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールにセンター方式を用い、入居利用者本位に対応出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個人記録を時間ごとで区切り、その方の一日を把握出来るように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門的な意見も取り入れ、スタッフやご家族とも話し合っている。	介護支援専門員が、担当職員等の意見も踏まえ、計画の更新に繋がられています。毎月のカンファレンスでは、個々の利用者の様子の変化や課題等について、共有し、話し合いが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを個人記録として毎日記帳し、その方の情報源の一つとして様々な事柄に活かすようにしている。		

自己 評価	第 三 項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携医療機関でのリハビリテーションなどを取り入れている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防に重点を置いている為、又超高齢者の方が数名おられ、そこまでのことはできていない。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人が医療法人であり、内科医の診察も行われる。必要な時には診察を受け支援されている。	かかりつけ医は利用者の選択で決定されています。週一回以上の内科診療があり、また必要が生じた場合は、随時速やかに対応できる体制が確立されています。整形外科の診療が必要な方は、週二回の往診が行われています。毎週訪問看護による支援も行われており、健康相談や状態管理に繋がっています。24時間対応のオンコール体制もあり、医療機関と一体となった支援体制が確立されています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関の看護師との連携、また外部の訪問看護ステーションと締結しており、医療面での相談等を行えるようにしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居利用者が、長期治療・入院などが必要となった場合、連携医療機関との情報交換などの話し合いを行うようにしている。	利用者の病状を踏まえ、母体医療機関の提携先・連携先医療機関への入院を中心に、連携の取れる体制が基本になっています。入院先医療機関との連携で、早期退院に向けた取組が基本にされています。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設当初より看取りの意識を持ち、終末期ケアに関しては常に話しており、連携医療機関の医師やグループホームの職員は連携を意識し備えている。	利用開始時に、終末期に関する指針の説明と同意取得が行われており、重度化や終末期の意向確認が行われています。対応可能な範囲で、利用者の意向に沿った施設看取りも実施されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携医療機関の医師、又訪問看護ステーションと相談し、指示を頂く。マニュアルを整備している。定期的な訓練は行えていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と連携し、法人で行う緊急避難訓練を年1回している。事業所独自の訓練も年1回以上行い、非常時に対応できるように訓練している。	飲料水・食品・消耗品・備品の備蓄が用意されており、担当者が在庫管理・期限管理を行っています。BCP（事業継続計画）の内容拡充が進行中です。	
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の書面を貼り出し、職員に対しては必要に応じ話をしている。書面でも誓約書を取り、対応には気をつけている。	利用者の尊厳や自尊心を損なわないよう、言葉かけや、介護中の接し方に留意されています。利用者個々の居室にトイレが設置されていることから、排泄時のプライバシー保護が保たれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居利用者に接する時には常に行っており、アセスメントツールのセンター方式においても入居利用者の気持ちを考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居利用者のことを考え、その支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は本人の希望を出来るだけ叶えられるように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居利用者の精神・身体レベルに合わせた食事に関する介助支援を行っている。	適温でおいしく食べられるよう、留意されています。従前は、食事レクリエーション等も活発に行われていたが、コロナ禍の制限下において、従前のような実施困難な状況でした。利用者が喜ぶ、手作りおやつ等の展開が計画されているところです。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居利用者の状態を把握しており、また個々の体調や体重なども把握し、対応している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けやケアに努めている。必要に応じ、歯科往診時に歯科医師(又は歯科衛生士)よりアドバイスを受けている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表があり、一人一人の状態や状況に合わせた排泄の支援を行っている。	利用者の排泄自立が維持できるよう、リハビリテーション等も含め、能力低下に留意されています。健康管理を含め、利用者自身で排泄を継続できるよう努められています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の使用や食事に関しては主治医とも相談し、食事担当の職員は飲食物を留意している。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を考え、ご本人様にも確認し、体調を考慮しながら行っている。	予定入浴が基本ですが、利用者の状態や様子、体調、意向等も踏まえながら、柔軟な対応ができるよう努められています。入浴は、利用者がリラックスできる場となるよう留意されており、利用者との対話も大切にされています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の入居利用者の状態を考え、休息や就寝の支援を行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	締結している訪問看護ステーションとグループホームの職員により、入居利用者一人一人に即した服薬管理を行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、入居利用者の楽しみ事や生活歴を理解しており、出来るだけそのご本人の力が発揮できるような声掛けなどの支援に努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策の為、外出を自粛している。	コロナ禍の制限緩和に伴い、利用者の意向を踏まえた、可能な範囲からの外出再開・拡充に向けて計画されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人で立替えをし、領収書を会計にまわしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望にもよるが、入居利用者の希望があれば、常に支援させて頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(リビング)には、さりげなく季節を感じる物をできるだけ掲示している。	共用空間スペースが広く、開放感のある明るい雰囲気、利用者個々が過ごしやすいスペース確保ができる配置になっています。壁面には、季節を意識できる、その月ならではの言葉や装飾等が行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは広く、ソファや椅子も多く用意させて頂いており、一人一人、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居利用者のご家族や関係者に話を聞き、使い慣れたもの、また好みのものを持ってきて頂いている。	居室内は、業者清掃と職員による清掃で、常に清潔を維持できるよう努められています。各居室内にトイレが設置されており、利用者個々のプライバシーが守られる構造になっています。利用者の運動能力や動線を配慮した、室内配置に留意されています。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように工夫している	入居利用者の個別ケアを重要視し、センター方式な どを使い、その方の力を活かせるよう考えている。		